

世界の外貨準備から見えること

IMF から世界の外貨準備の通貨構成（2022 年第二四半期末）が明らかにされた。そこから読み取れるポイントを列挙する。

1. 今回第二四半期では多くの通貨で対ドル為替レートの変動が大きく(ドル高)、各通貨の割合に影響を与えた。非ドル通貨のドル価値が低下し、ドルの相対的割合が高くなり、その他の通貨の相対的割合は低下した。
2. ロシアのウクライナ侵攻により経済制裁が課され、ロシアはドルからのシフトを進めた。こうした影響が世界の外貨準備にどの程度及んでいるのか。
3. ドルの割合（59.53%）は増加した。2020 年第四四半期に 60% を切って以来の高い割合を示した。上記の為替レートの要因の他にも、ロシアのドル離れが他の国に広がることもなかったようだ。むしろ安全通貨としてのドルの需要が高まったと見られる。
4. ユーロの割合（19.77%）は 2017 年の第二四半期以来の 20% 割れに低下した。為替レートの要因の他にユーロ離れもある。ウクライナ侵攻はドルよりもユーロへの影響が大きいようだ。
5. 人民元の割合（1.88%）は前期と同水準だった。人民元は 2016 年第四四半期から中国が通貨構成を明らかにして以来、増加してきた。微増だが毎期の傾向だ。今期も人民元安に振れた為替レートの要因を除けば微増が継続したはずだ。
6. 円の割合（5.18%）は 2018 年の第三四半期以来の低水準だった。この期に 10% 以上進んだ円安がシェア低下の最大要因と思われるが、円からドルへシフトした部分もある。
7. ポンドの割合（4.88%）は前期よりも低下したが、基本的に増加傾向が続いている。為替レートでドルポンドが 7% ほど高くなった割には低下幅が少ない。ユーロからのシフトが考えられる。

8. オーストラリアドル、カナダドルの割合はそれぞれ1.88%、2.49%だった。特にカナダドルは増加傾向が続き、これまでで最高の割合だった。金利、コモディティー通貨、政治の安定など、カナダドルの需要は根強い。
9. その他通貨の割合（3.15%）は前期よりは減少したが、3%台は維持していて人民元より多い。通貨分散が広範囲に行われている証だ。

以上です。